社会に出るにあたって

理学部学生　山　添　秀一郎

この原稿の依頼を受けた時，私は改めて「もうすぐ卒業なんだな」と認識した。期待に胸を膨らませて入学したのがまるで昨日の事のように思えてくる。月並みではあるが，「光陰矢の如し」という言葉を痛感してしまう。と同時に，私の4年間の学生生活を振り返りながら，この「卒業」というものがどのようなものであるか，そして社会に出るにあたってどうすべきかを考えてみることにする。

入学直後は，非常に初々しさの残る時間であった。私の場合，学生生活のスタートは慣れない土地での独り暮しのスタートでもあった。“学業”，“友人”，“遊び”，“アルバイト”……etc。4年間という学生生活で行う様々な事に対して期待と不安が交錯していたのがこのころである。思えばこのころが，最も向学心に満ちていたような気がする。学生生活にも慣れて2年，3年となるにつれて“学業”よりも“遊び”や“アルバイト”に精を出す平均的な大学生となってしまった。そして気がついたら4年。「卒業」という2文字がかすかに見えてきた。目前にせまった「卒業」。一体，私にとってこの言葉の持つ意味はどのようなものであろうか。

今まで私は小・中・高校と，3回の「卒業」を経験してきた。6年，3年，3年と時間の長短はあれ学業の証しが「卒業」であった。この点では，今回の「卒業」も同じであると言える。しかし今回の「卒業」が今までと根本的に異なるのは，「卒業後にスタートする環境が違う」という事だ。すなわち，今までの「卒業」であれば必ず教育機関が待ち受けていたが，今回はそうではないという事だ。待ち受けているのは“社会”である。そこは，小・中・高校のような同一的なものではない。年輩の方や同年齢でも社会人としては私より上の人もいる。また，私と同じくして社会に出る人でも，様々な経歴を持っている。すなわち，社会というものは様々な価値観が存在し，複雑かつ細分化したものである。自分の行動に対して今まで以上に責任を持たなければならない。同時に，自分という一人の人間がこの社会の中でどのような役割を果たさなければならないのかという事を考える必要があるのではないだろうか。そして，自分をどのようにアピールし，多様化する社会で自分の力をいかに発揮して行くかという事も忘れてはならない。

繰り返しになるが，社会というものは複雑かつ細分化したものである。そして，この複雑かつ細分化した社会における種々の問題を解決するためには，多様な価値観，様々な考え方が必要であると言えるのではないだろうか。フロンガスによるオゾン層の破壊や大気中の二酸化炭素の増加による地球の温暖化などの環境問題，人手不足と外国人労働者の問題，土地問題等々……。“リンケージ”という言葉を最近よく耳にするが，これらの諸問題は一つの側面からでは解決できないものである。私はこの4年間，理学部で自然科学を学んできた。大学4年間で学んできた事が直接，社会で役に立つとは思えない。しかし，「物事を考える」という点では，この4年間で培った事は決して無駄にはならないと思う。だからこの4年間で学んだ事を糧として，様々な視点から物事を見つめ，難題に対処できるよう努力しようと思う。